ブランド「朝倉さんしょ」の産地化に向けて

アサクラサンショウは養父市八鹿町朝倉が発祥の地で、江戸時代からの名品であった。従来サンショウは枯れやすいとされていたが、2006年北部農技を中心として枯れにくい台木（フユザンショウ）が選抜された。これを契機に但馬地域でのアサクラサンショウの産地化に向け、ブランド名を「朝倉さんしょ」として品質向上、面積拡大を図っている。

ブランド化へのステップ

枯れにくいサンショウを普及するため、2006年に北部農技が中心となり、県内の農家を対象に、「アサクラサンショウ研究会」を発足させ、技術普及を図ってきた。しかし、「アサクラサンショウ」は養父市が発祥の地であることからまずは但馬地域での特産化を図ることとした。そこで、2007年に、北部農技と但馬地域の4普及センターで「アサクラサンショウプロジェクトチーム」を結成し、振興計画を策定した。

さらに2009年、計画の実践に向け、ＪＡ、県、市町で「朝倉さんしょ振興委員会」を立ち上げ検討を重ねた。そして、推進母体となる「ＪＡたじま朝倉さんしょ部会」を2010年に設立した。

産地化に向けての活動支援

普及センターは部会とともに、現地調査や出荷説明会を通して、樹の品種分けや「朝倉さんしょ」と他の品種の区分出荷を徹底指導した（写真）。その結果、「朝倉さんしょ」は市場で他の品種よりkg単価が約300円高く取引され、生産意欲の向上につながった。品質については、講習会等でせん定技術を重点的に指導し、大房率を向上させることができた。

一方で、部会及び関係機関により栽培面積拡大を推進し、2009年度の約3.6haから2011年度には約６haとなった。2014年度には10haを目標に活動している（図）。

現在、苗木生産は地元の生産組合に委託している。技術支援の結果、活着率が約50%から約70%に向上し、苗木の安定供給を図ることができた。

また、普及センターでは、新規栽培者に対し2011年度から「朝倉さんしょの学校」を開校し（受講生34人）、ベテラン農家による講義、実習等により新規栽培者等の技術を向上させた。

今後の方針

今後も品質向上に向けた更なる技術指導を行うとともに、消費拡大に向けてのＰＲや加工品の開発により「朝倉さんしょブランド」の確立を支援していく。

椿野　佳奈子（朝来農業改良普及センター）
（問い合わせ先　電話：079-672-6886）

写真　区分出荷の様子

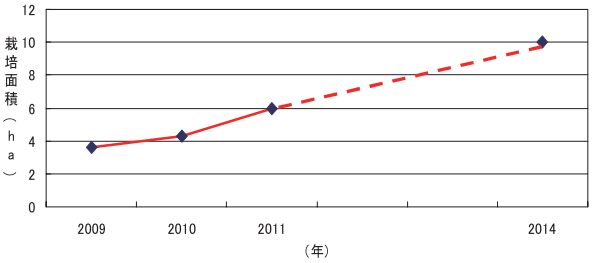

図　朝倉さんしょの栽培面積の推移と目標